



2023年12月25日

豊川稲荷 大鏡餅づくり ～豊川稲荷 「軽量版大鏡餅」を作製～

<概要>

豊川閣妙巖寺 豊川稲荷（愛知県豊川市）、山口化成工業株式会社（愛知県豊川市）と豊橋技術科学大学は、豊川稲荷で年末の迎春準備の恒例行事としてつくられる「大鏡餅」の軽量版を作製しました。

作製した「軽量版大鏡餅」は、年末（12月28日（木）午後）から鏡開き（1月11日（木））まで本殿に飾られますので、参拝の際に見ることができます。

<詳細>

豊川稲荷内のしめ縄につける紙垂（しで）を製作している「有限会社祝飾りの滝崎」から本学の寺嶋学長に、『豊川稲荷の「大鏡餅」をプラスチックなどの加工品で作製し、その中に個包装の小型のお餅を入れて、みんなに配ることはできないか』との相談がありました。その後、電気・電子情報工学系の滝川浩史教授、研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）の川合悦藏特任教授及び担当 URA らが連携して取り組みました。

「大鏡餅」づくりは毎年、寺の職員など約45人が参加し、大小10種類以上、約1,000個つくられ、大きなものでは、直径100cm、重さ100kgになります。「大鏡餅」は、お正月にかけて本殿に飾られ、1月下旬には、一口サイズの「のし餅」にして、市内の養護施設などに配布されていましたが、新型コロナの影響で「のし餅」の配布が難しくなりました。また、カビが生えて配布できない場合もあり、SDGsの観点から改善が必要になっていました。加えて、近年の職人の高齢化、もち米の不作等の事情からも対策・改善が必要な重要課題になっていました。



滝川教授らは当初、樹脂製のレプリカを3Dプリンタで製作することを検討しましたが、サイズが大きいことや、コスト・製作時間などから、実用的な作製が難しいことがわかりました。そこで、発泡スチロール成型や発泡ポリウレタンの成型加工を手掛ける山口化成工業株式会社に相談して協力を仰ぎ、同社の技術及び豊川稲荷の工夫を組合せ、見事な質感を備えた軽量大鏡餅を完成させました。なお、この軽量鏡餅については、共同で特許出願をしました。

<今後の展望>

豊川稲荷では、より長持ちして再利用できるものにするための検討を継続する予定ですので、本学としても引き続き協力してまいります。

実施者 宗教法人妙巖寺（豊川稲荷）
共同実施者 国立大学法人豊橋技術科学大学
山口化成工業株式会社



本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋
TEL：0532-44-6506 FAX：0532-44-6509